

早 稲 田 大 学 図 書 館 紀 要

第 48 号



分散と統合

浦 川 道 太 郎

図書は手元に置く方が読み手にとっては便利である。この考え方で、中央図書館以外に各キャンパス・各箇所に図書館・図書室が開設され、図書館機能の分散化が進んだ。この分散化の進行は、同時に蔵書の重複化の進行でもあった。第二世代WINEにより全図書館・図書室の蔵書の書誌データが集中されたが、そこに見られる数は、書誌数一五二万件、所蔵数二八六万件であり、その差の全てが重複本であるとはいえないまでも、極めて多くの重複があることを教えてくれる。

もとより重複の中には、不可欠なものもある。しかし、図書館・図書室間の連携が不十分のために、無駄に購入したものも多いに違いない。第二世代WINEの導入による書誌情報の共有化と図書の移動の改善により、無駄な重複購入を回避できる基盤は整備された。情報のデジタル・データ・ベース化の進展を前に、私たちは全学の図書館・図書室のさらなる連携と統合に着手しなければならぬ。

2001 年 3 月